

まなびの森



廿日市市立吉和小・中学校 校長通信

【第4号】R3. 9.27

校長 戸崎志乃婦

恩送り Pay it forward

高学年の児童が、中学年の横で熱心に太鼓のバチを動かしています。体全体でも音を刻んでいるようです。そのうちに自分の小太鼓を横に並べてたたき始めました。先輩の手元を必死で見ながら、しばらく二人での熱心な練習が続いていました。



10月の公開研究会が、まず1回目の発表とあって、やまびこ太鼓の練習が日に日に熱を帯びてきました。

上述の児童の姿を見ながら、最近よく聞く「**恩送り**」という言葉が浮かびました。お世話になった方に「恩」を返すのは「恩返し」ですが、その「**恩**」を次の誰かに渡していくことが「**恩送り**」です。歌舞伎俳優の坂東三津五郎さんは「先人から預かった大切な芸という荷物を、次の世代に渡したい。」と常々言われていたそうです。やまびこ太鼓も神楽と並び、吉和の大切な伝統芸能の一つです。先程紹介した児童もきっと中学年の頃には、十分に太鼓を打つことができなかつたかもしれませんが、今は手首を上手に使った見事なバチさばきでよい音を出していました。子供達に「恩送り」という意識が特にあるわけではないでしょうが、伝統を受け継ぐ中で、そこに込める思いや技、つながることの大切さ等が、「**送られている**」のだと小学生を見て実感します。



このことは、吉和地域全体の文化みたいなものなのかもしれませんし、それが子供達を日々育てくださっていることに本当に感謝しております。

吉和小・中学校は、全児童生徒47名ですので、合同で学習する機会が多くあります。異学年で学び合うことは、上級生にとっても下級生にとってもお互いにとってもよい効果をもたらしています。

◇1・2年生は合同で体育をしています。写真は、1年生の前で2年生が側転のお手本を見せているところです。2年生は去年から頑張ってきた技を1年生に張り切って見せてくれましたし、1年生は「2年生みたいに



できるようになるぞ！」と練習に励んでいました。◇総合的な学習の時間では、小学3年生から中学1年生までが2つのグループに分かれて、中学2・3年生は合同で探求的な学習をしています。



下級生にとっては、上級生が教えてくれることが学習の助けになりますし、目指す姿になり、身近な上級生をお手本にしながら成長しています。

上級生にとっては、下級生の学びを見ながら自分自身の成長を実感するでしょうし、自分が学習した過程から学び取ったことを伝えながら、相手の立場を思いやったり、相手に応じて適切に話したり行動したりしながら、成長を遂げています。異学年合同学習はどこか「世の中」と似ています。

「大人」から「子ども」へ伝えることも、これと同じことかもしれません。少しだけ先に生まれたものとして、**自分達が教えてもらったたくさんの財産を子供達に「恩送り」**していきたいと思ひます。